

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2568 号

Association between Dietary Habits and Type 2 Diabetes Mellitus in Yangon, Myanmar:
A Case-control Study

ミャンマー国ヤンゴンにおける食習慣と 2 型糖尿病との関連：症例対照研究

上野 里美 (うへの さとみ)

博士 (医学)

論文内容の要旨

ミャンマーでは、近年、2 型糖尿病およびその予備軍といわれる耐糖能異常を有する成人が増加している。とりわけヤンゴン地域において 2 型糖尿病の有病率が高いことが報告されている。本研究は、ミャンマー都市部の住民の食習慣の危険因子と 2 型糖尿病の関連を特定することを目的に、ヤンゴン地域在住の 25~74 歳の 300 人を対象に、糖尿病クリニックで糖尿病と診断された新規患者 150 人と、地域から選出された非糖尿病の住民 150 人について症例対照研究を実施した。その結果、症例群は対照群と比較すると、麺、魚、豆、発酵食品と漬物、乾燥食品、調味料(主食や副菜に加える)、非乳製品の摂取頻度が有意に高く、野菜および果物はいずれも摂取量(3 サービング/日以上)が有意に低かった。食行動に関しては、家族と食事をする、朝食を抜く、外食する頻度が対照群に比べ有意に高かった。交絡要因を考慮した最終モデルでは、調味料(調整オッズ比(aOR) 11.23、95%信頼区間(CI) 3.08-40.90)、3 サービング/日以上の野菜摂取(aOR 0.18、95%CI 0.05-0.67)、および家族と食事をする(aOR 2.23、95% CI 1.05-4.71)が 2 型糖尿病と関連していた。ミャンマーの特徴的な食文化である塩味の多い調味料を食事に加える、家族で複数の料理を囲み一緒に食すという習慣が、2 型糖尿病に関連する危険因子である可能性が示された。本研究の結果は、ミャンマー都市部における 2 型糖尿病の一次予防に資することが期待される。